

丸山城跡緊急発掘調査概要

1991・2・12～1991・2・22

丸山城跡緊急発掘調査概要

- | | |
|---------|--|
| 1、調査主体 | 川本町教育委員会 |
| 2、調査地 | 邑智郡川本町大字田窪 |
| 3、調査期間 | 1991年2月12日～1991年2月22日 |
| 4、調査担当者 | 石見町教育委員会 湊 健一 |
| 5、調査指導 | 島根県教育庁文化課指導係 |
| 6、事務局 | 川本町教育委員会 社会教育課長 小 倉 勲
同主任主事 森 口 正 和 |

発掘調査の経過と地理的環境

丸山城跡は川本町大字田窪の山名丸山の頂上に所在し、桜江町と境界を接している。この丸山の裾には、三原、南佐木、北佐木、田窪の4地区の盆地があり、旧三原村を形成していた。

当地区には丸山城主にまつわる数々の言い伝えや神楽、田植え囃子等の伝承を引き継いでいる。

調査区の標高は480mで眼下東に向かって4地区が一望できる。また遠く東は三瓶山、島根半島、西は大家高山、温泉津町の矢滝城などが見渡せるところに位置している。眼下の4地区からの比高差は約150mを測る。

調査は、国の補助事業による川本町林業山村活性化林業構造改善事業森林浴公園整備事業「丸山城森林浴公園整備」にともなう緊急発掘調査である。

なお、調査の目的は、事業計画の施設施行により遺跡の破壊を守る事と、事業遂行の可能地を併せて調査することである。

調査主体者 川本町教育委員会

調査の方法

発掘調査前の地形測量は、1/100のスケールで行い、調査による遺物、遺構が検出した場合には、調査を中断し事業可能地を再度調査するとともに、調査範囲は事業に必要な最小限を調査する。

調査区は通称二の丸下加工段をA地区、一の丸下加工段をB地区、既設登山道の郭をC地区、二の丸をD地区、一の丸E地区とした。

また、検出された遺構については、発掘せず埋め戻した。なお、遺物については写真撮影による記録とし、取り上げ注記の上保管した。

調査の概要

A地区（炊飯棟建設予定地20㎡）については調査の結果、表土10cm下から土師器、陶磁器の破片が多数出土した為事業予定地の場所変更を行うこととし、遺構調査に入らず現地の埋め戻しをして、調査を終了した。

また、この調査区は人為的加工段であり、調査地の周辺には明らかに建物の礎石と思われる石や郭の内張り石の存在を確認した。

B地区（遊具施設）についての調査は、施設の支柱部分（4ヶ所）のみ調査した。その結果当初予定の場所に（ターザンロープ）支柱調査場所において、土師器数点の出土があった。縄橋遊具支柱調査場所については、落ち葉を除去した状態で、点々と礎石の配列が確認されたので場所変更を指示し、埋め戻して調査を終了した。

C地区については、駐車場予定地であったが、担当課との協議の結果、駐車場を郭外的一段下に場所変更することで、調査は行わなかった。

D、E地区（展望施設の調査16㎡×2ヶ所）については、遺構、遺物等の検出はなかった。

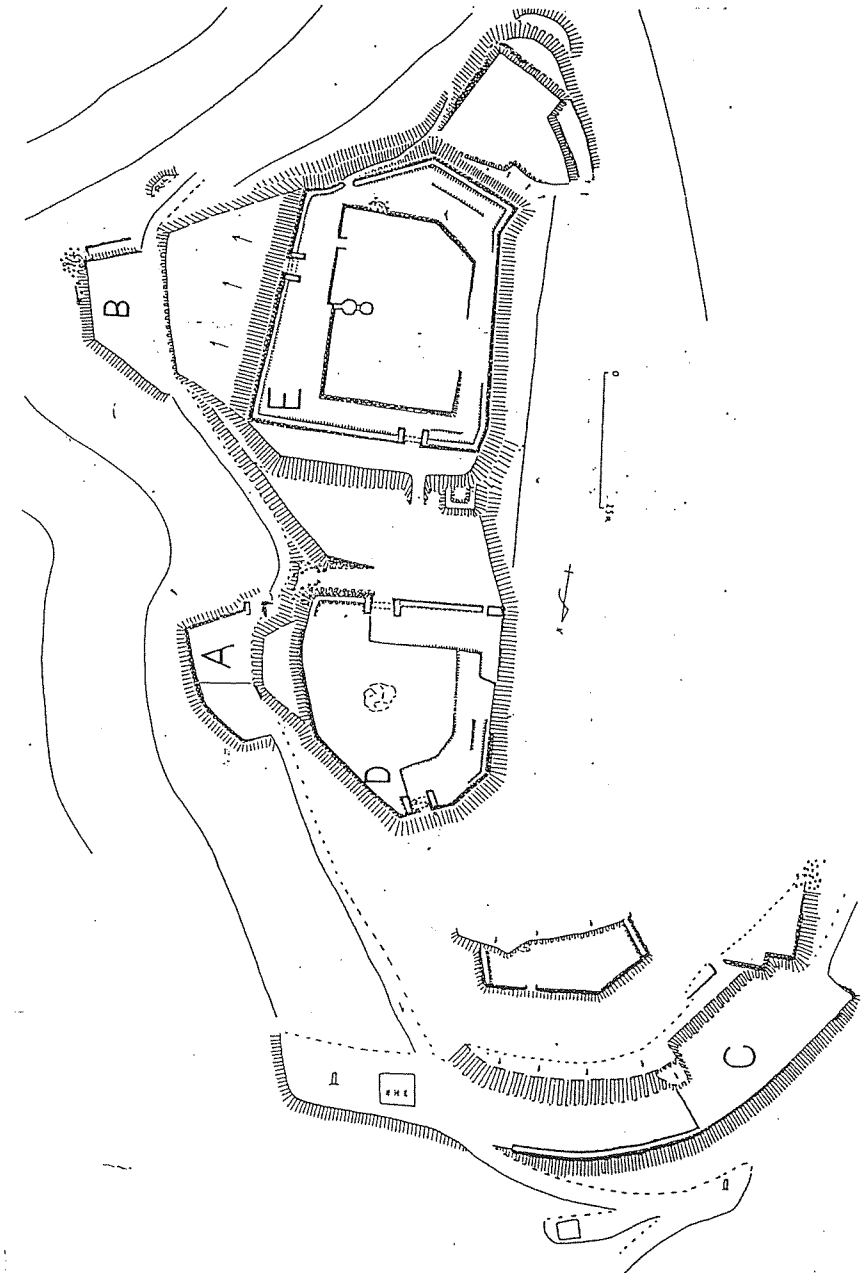
まとめ

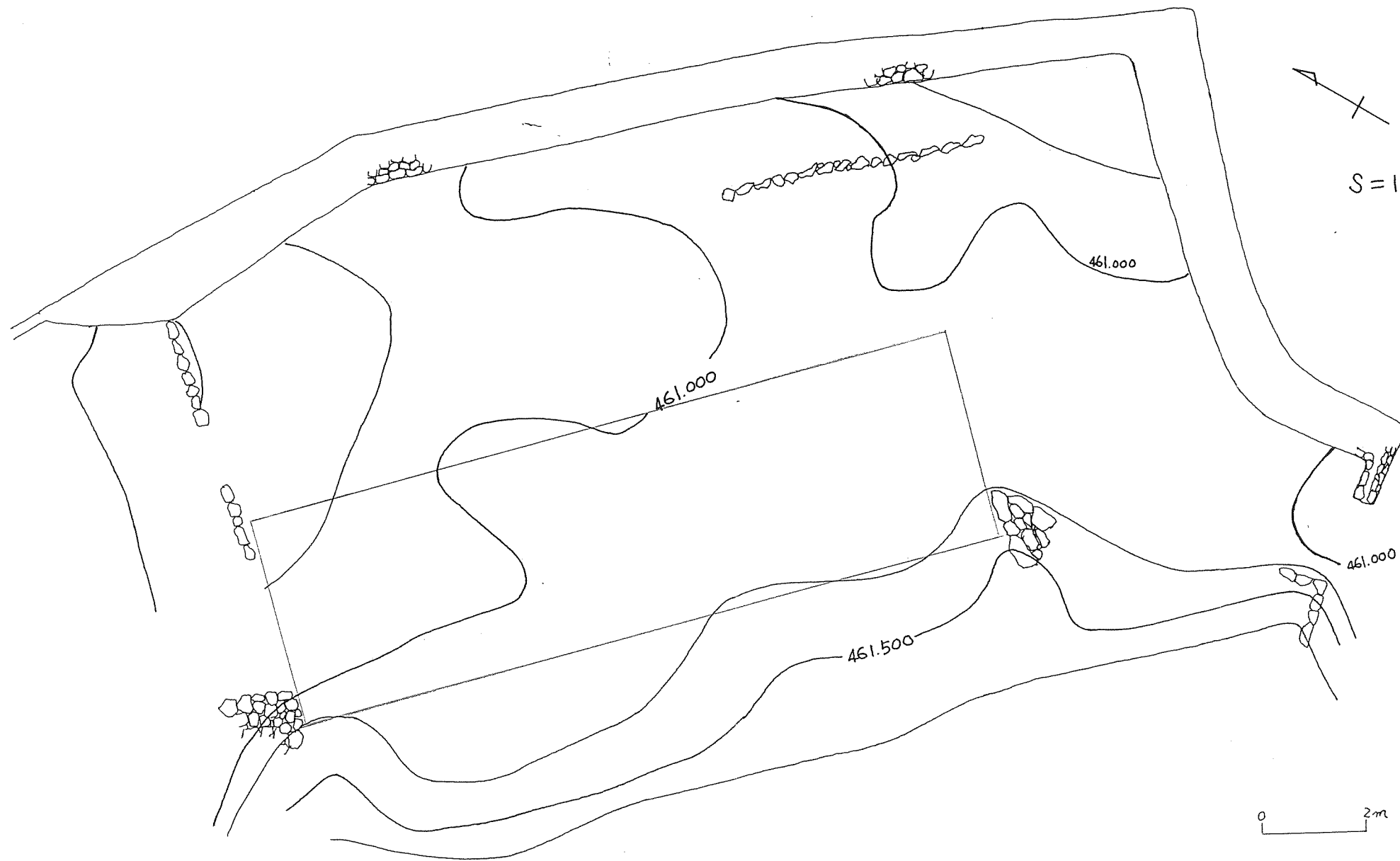
この調査は森林浴公園事業による緊急発掘調査のため、遺跡を事業施行により破壊から守る事を前提に調査を行った。調査期間10日という短い期間ではあったが、この丸山城跡の保存状態のよさを改めて認識する事ができた。今後は時間をかけて十分な調査を行いたいと思う。

< 特徴 >

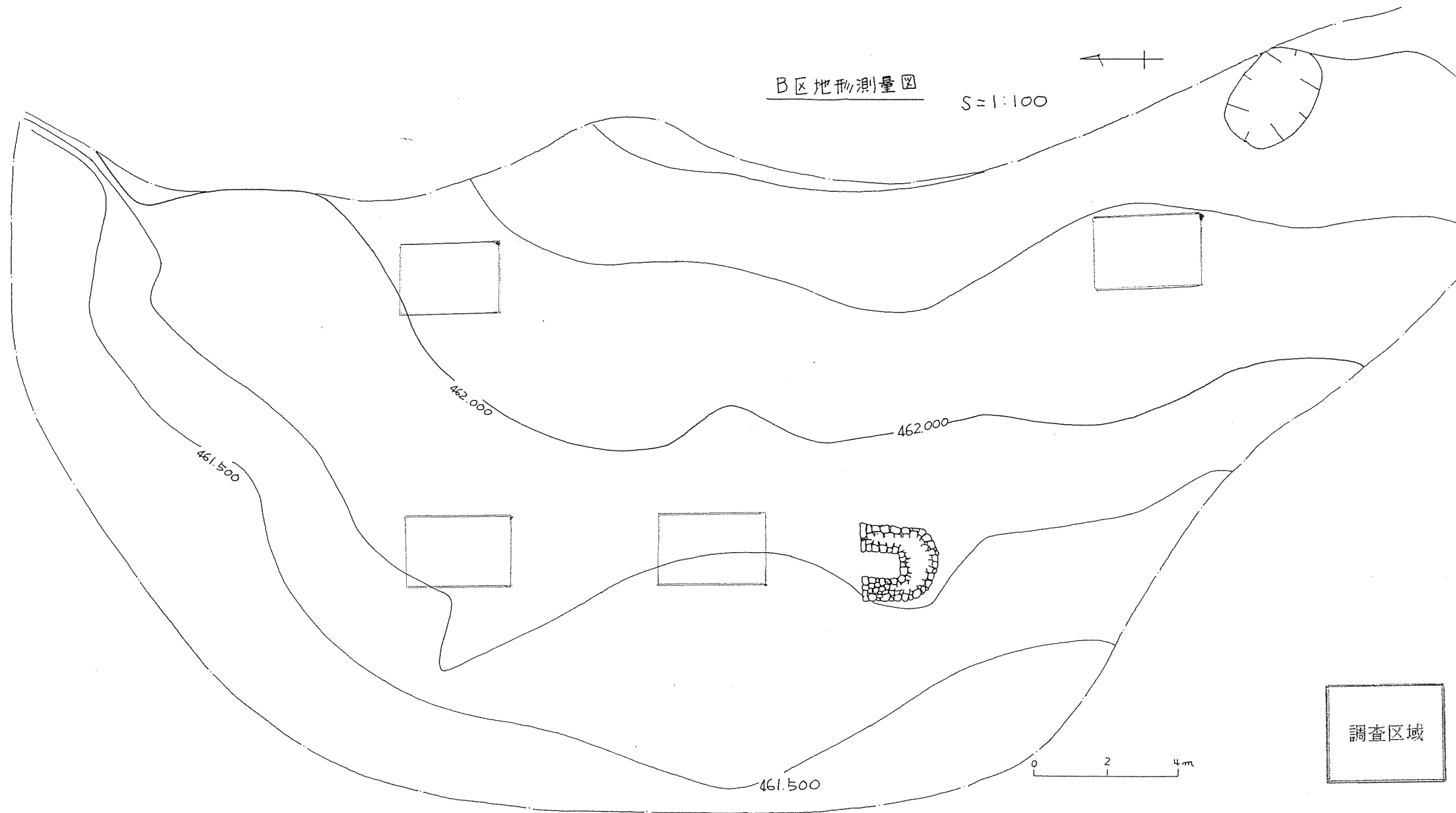
- 1、壁が基本的に石垣によって構成されている。しかし、高さは1~2mと低い。
- 2、石垣土居を多用している。
- 3、虎口がはっきりしており、周辺の石垣が整えられている。
- 4、虎口がずらして築かれている。
- 5、基礎石が各所に露出して見られ、大きな石も多用している。

丸山城跡発掘調査場所一覧



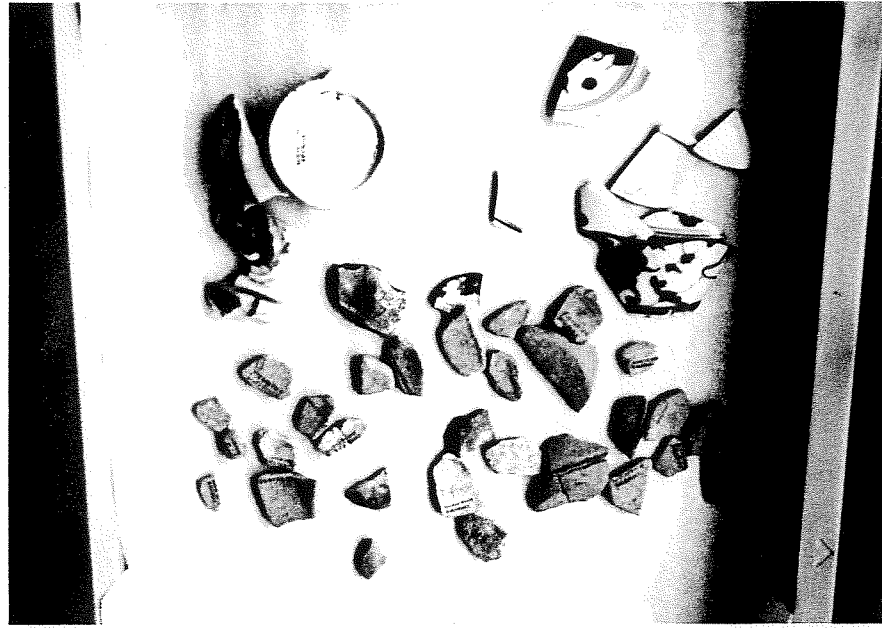


A区地形測量図



出土品写真

A 銅器類



B 銅器類



丸山城跡踏査結果報告書

1. 調査にいたる経過

丸山城跡は川本町三原に所在し、その歴史的背景とどっしりとした山容から地域住民のシンボリックな存在となっている。

丸山城跡の主郭部については平成4年度から平成8年度まで川本町教育委員会により発掘調査などが行われ、郭の配置が明らかにされた外、一部では建物跡の存在も確認されている。しかし主郭部以外の山腹斜面から裾部にかけての調査はこれまで行われておらず、その全容が明らかになっているとは言い難い状況である。

今回の調査はこれまでほとんど明らかにされていない登城路の確認を主目的とし、あわせて山腹緩斜面や丸山から派生する尾根上に郭が分布していないかどうかについても調査を行った。

2. 調査結果について（第1図 第2図参照）

○荘厳寺方面からの調査

荘厳寺は丸山城主小笠原氏と特に関係の深い寺と伝えられ、地形的にもこのあたりから登城路がある可能性が最も高いと考えられている。しかし荘厳寺南西側の尾根筋に人工的な削平地は認められなかった。

この尾根と丸山との間の鞍部①には土橋状の高まりが認められる。谷筋を登ってきた山道がここで丸山側と尾根側に分岐しているが丸山への道はその約100m先の炭窯跡でとぎれている。このあたりから上に続く道がないかと探したが笹が茂っていて確認することができなかった。その上方の②の場所で折れ曲がる道らしきものが見られるが笹が茂っていて前後が不明であり、道であるとの確信は持てなかった。

○丸山城跡西側緩斜面の調査

西側緩斜面③では良好な状態で残っている登城路を確認した。巾も1m以上あって谷側には石を並べるなど丁寧につくられている。丸山城縄張り図の「三の曲輪」につながる道であるが、丸山城の周回通路によって切られており、この通路の少し上方では遊歩道にほぼ重なっているようである。

この道は丸山城の背後に通じる道であり、正式な登城路ではなくいわゆる搦手道と考えられる。

この道沿いで5m×10m程の削平地が見られた。（第1図）かなり粗雑な作りであるが丸山城に伴う曲輪跡と考えられる。

○丸山城跡東側斜面

東側斜面では急斜面にジグザグに作られた道を確認した。上方は笹が茂っていて確認できなかったが「十一の曲輪」に続くものと考えられる。下方の連絡も不明である。

場所的に見て正式な登城路であろうと考えられるが、土砂の崩落により保存状態は良くない。この調査の中で⑤の場所で曲輪らしき平坦面を発見したが笹が茂っていて詳細は不明である。④の登城路とこの平坦面は関係がありそうである。ここより下方は遊歩道と車道により完全に破壊されているように思われる。

「十二の曲輪」に続く道があったであろうことは縄張り図から読みとれるが、遊歩道により破壊されていて確認することが出来なかった。おそらく現在の遊歩道と付かず離れずの所に作られており、⑤のあたりで④の道と合流していたものと考えられる。

○丸山城跡北側斜面

北側斜面には丸山から派生する尾根がいくつも見られることからこの尾根筋を中心に踏査した。

ここでは丸山林道で切られた山道⑥を発見した。この道は急な尾根筋をまっすぐに登るよう作られており、城跡には関係のない山稼ぎのための道と判断した。

西勝寺背後の尾根筋にも山道⑦が見られる。屋根筋を緩やかに登っていき、道幅も広く作られていて登城路の可能性もあると考えていたが、中途から急な尾根筋をまっすぐに登るよう作られていた。他に迂回する道を探したが確認できなかったため、この道も山稼ぎのための山道と判断した。

西勝寺から谷に入る山道が確認できたのでここも踏査した。⑧少し行くと水田跡が見られ石垣が見られたが、その石垣がクランク状に曲げられていることが気にかかった。おそらく屋敷の石垣と思われるが、なぜ曲げて作られたのであろうか。その先はカナナ流しにより地形が大きく変えられていて踏査を中止した。この谷では鉄滓を採取した。この奥に中世のタタラ跡があるものと考えられる。

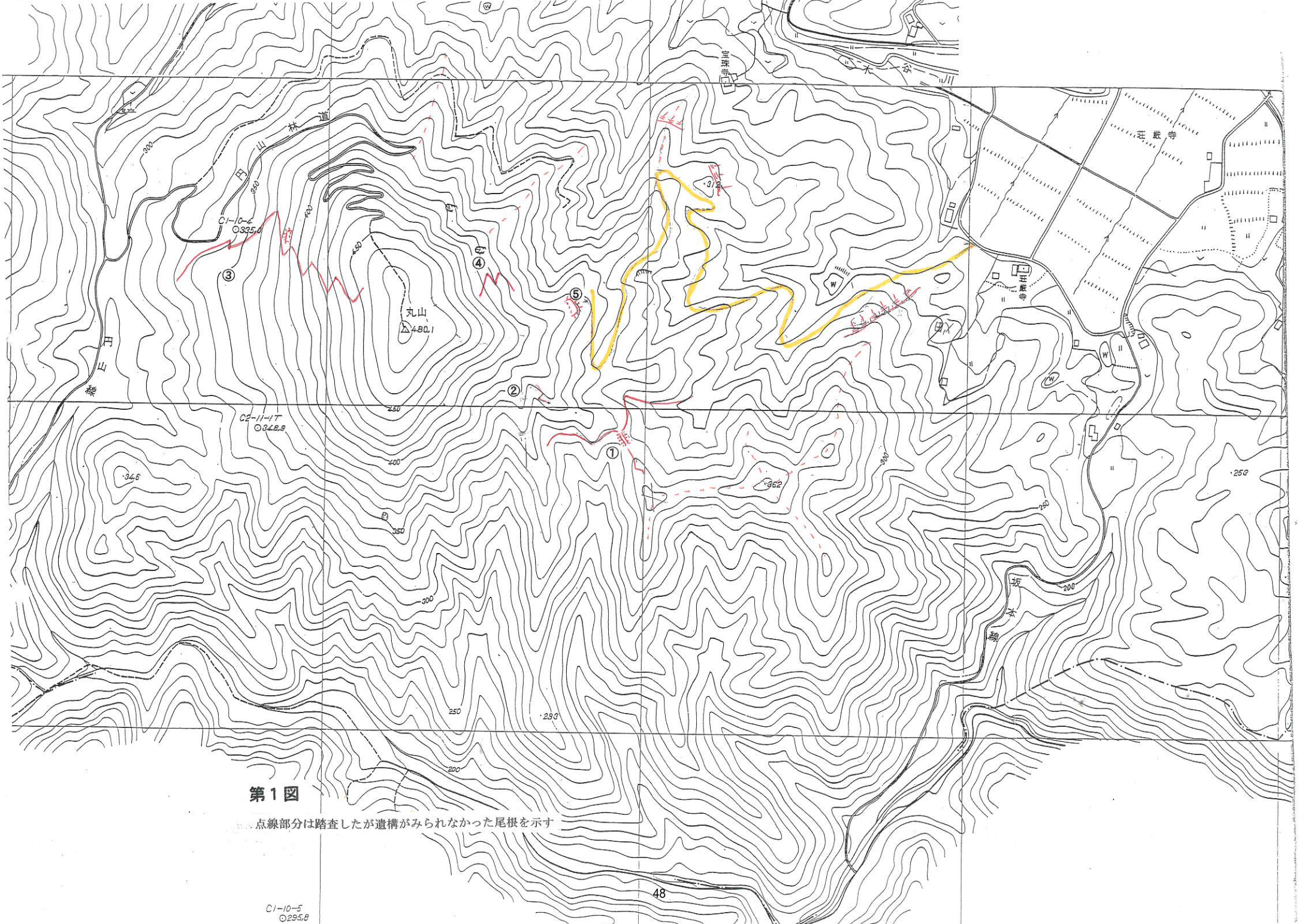
宝珠寺方向には2本の尾根が派生しているが、いずれにも登城路・曲輪を確認できなかった。

3. まとめ

今回の調査は丸山城への登城路の確認を主目的として実施した。その結果「十一の曲輪」への登城路の一部を確認した。地形的に見て最も主要な登城路である。しかし土砂の崩落や「わんぱくの森」建設にともないかなり破壊されており保存状態は極めて悪い。また山裾部分は後世のカナナ流しにより大きく地形が変えられており、肝心の登り口も確認することが出来なかった。全体的にはこの主要な登城路は消滅に近いと言わざるを得ない。「十二の曲輪」への道もこの登城路から分岐していたと考えられるが、笹が茂っていて確認できなかった。遊歩道によりかなり壊されているように感じている。

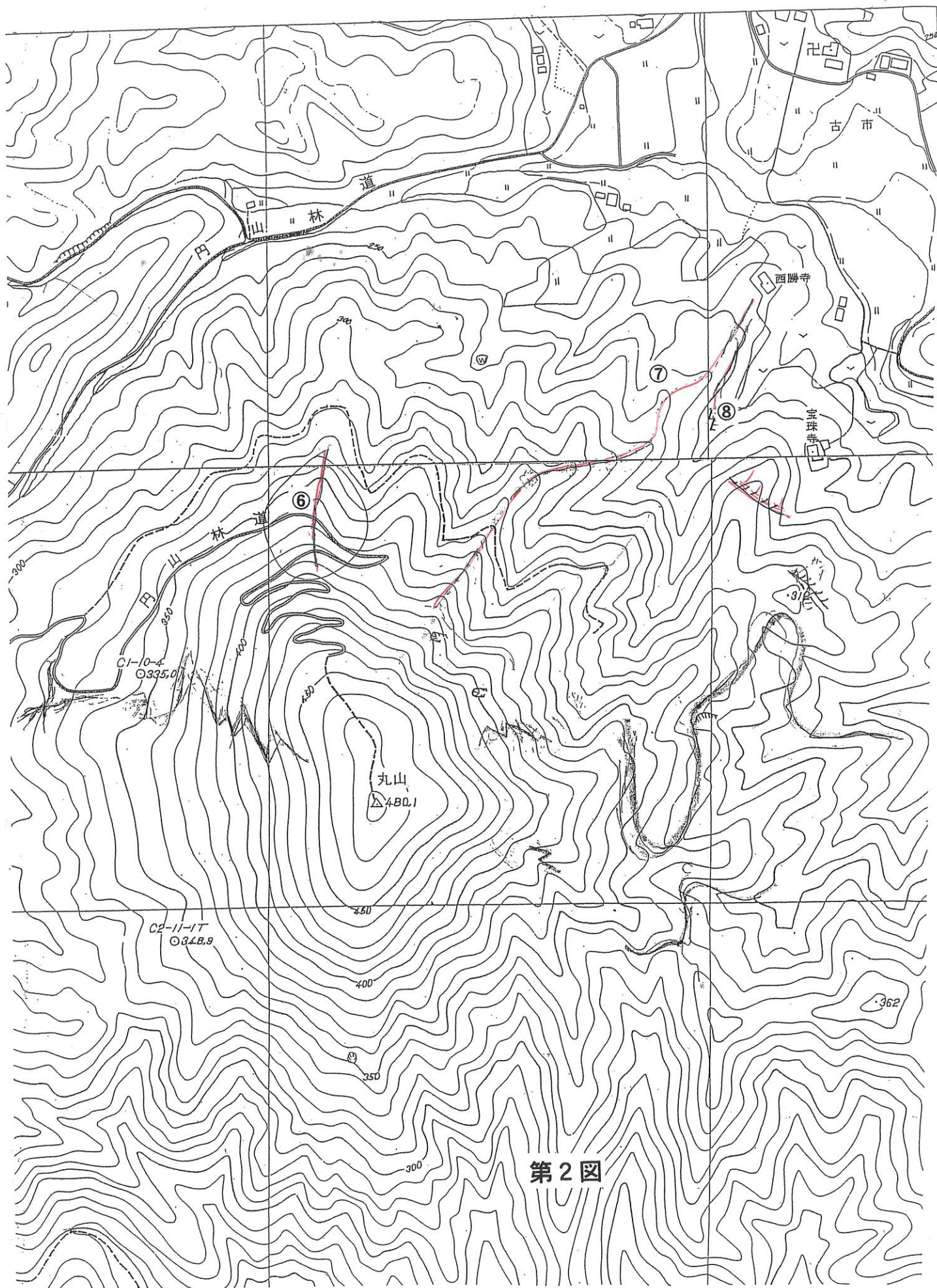
西斜面では良好な状態で残されている搦手道を確認できた。ただ町道丸山線付近を確認していないので今後の追加調査が必要である。

搦手道付近の削平地は丸山城にともなう曲輪跡と思われる。⑤の平坦面については笹が茂っているので詳細は不明で再調査が必要である。これ以外に歩いた範囲内では曲輪跡とおもわれる削平地はみられなかった。



第1図

点線部分は踏査したが遺構がみられなかった尾根を示す



第2図